

令和元年東日本台風では、全国各地で甚大な被害が発生したことを踏まえ、上庄川水系においても、事前防災対策を進める必要があり、以下の取組みを実施していくことで、甚大な被害を生じさせた平成17年7月洪水と同規模の洪水による家屋浸水被害の解消を図る。



※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

- 上庄川では、県、市、土地改良区が一体となって以下の手順の「流域治水」を推進する。
 - 【短期】桑ノ院池における事前放流等の基本協定の締結、体制構築・実施を行うことにより、洪水被害を軽減する。
 - 【中期】上庄川下流部の市街地での重大災害の発生を未然に防ぐため河積確保を目的とした河道掘削等を実施。
 - 【中長期】上庄川中上流部の浸水被害を防ぐため、堤防整備や河道掘削等を実施し、流域全体の安全度向上を図る。
- あわせて越水、溢水の頻発箇所へは、必要に応じて、水位計や監視カメラを設置し、WEB上への配信追加・周知などを行うことにより、避難判断に役立てる。

区分	対策内容	実施主体	工程		
			短期	中期	中長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	上庄川の河道掘削、堤防整備、橋梁架替等	富山県	下流部(河道掘削等) → 中上流部(堤防整備等)		
	桑ノ院池における事前放流等の体制構築、実施等	富山県 土地改良区	整備期間が長くなるため、被害を減らす方法として堤防整備のみだけでなく、その他の洪水調整施設などの検討		
	砂防関係施設の整備	富山県	R3に事前放流について基本協定を締結し体制の構築を図る		
	森林整備・治山対策	富山水源林整備事務所 富山県			
被害対象を減少させるための対策	立地適正化計画に基づく「安全なまちづくり」に向けた取組(防災指針策定など)	氷見市	立地適正化計画への防災指針の記載と取組など		
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	災害リスクの現地表示、洪水ハザードマップの周知、浸水実績の周知	富山県 氷見市	必要に応じて、越水、溢水の頻発箇所への設置やWEB上への配信追加・周知など		
	水位計・監視カメラの活用	富山県			

【事業費(R2年度以降の残事業費)】

- 河川対策
全体事業費 37.8億円※
河道掘削、堤防整備等
- 砂防対策
砂防堰堤、集水井等

※県の河川整備計画の残事業費を記載

気候変動を踏まえたさらなる対策を推進

(様式:取組事例)

区 分	氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	実施機関	富山県
メニュー名	河川改修(河道掘削、堤防整備、橋梁架替)		
事業・施策の名称	河川改修(河道掘削、堤防整備、橋梁架替)		
実施場所	上庄川		

【対策概要】

上庄川は、氷見市の上庄谷平地を流れる河川である。本川は流路が屈曲し、河積も狭小であるため、過去には降雨により幾度も氾濫している。平成27年度から事業に着手し、河床掘削、築堤等の整備を実施し、浸水被害の解消を図っている。

【事業内容】

事業期間 :平成27年度～

内 容 :計画延長5,600m(河道掘削、堤防整備、橋梁架替)



(様式:取組事例)

区 分	氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	実施機関	富山県
メニュー名	砂防関係施設の整備		
事業・施策の名称	砂防関係事業		
実施場所	上庄川流域		

【対策概要】

土砂災害から暮らしを守る砂防関係施設を整備します。

土石流災害を防ぐ

砂防事業



・砂防堰堤 等

大地が動くのを防ぐ

地すべり対策事業



・集水井工
・横ボーリング工 等



(様式:取組事例)

区 分	氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	実施機関	富山県、土地改良区
メニュー名	桑院ため池における事前放流(体制構築、実施)		
事業・施策の名称	桑院ため池における事前放流(体制構築、実施)		
実施場所	氷見市 桑院ため池		

【対策概要】

桑院ため池における事前放流等の体制構築、実施等

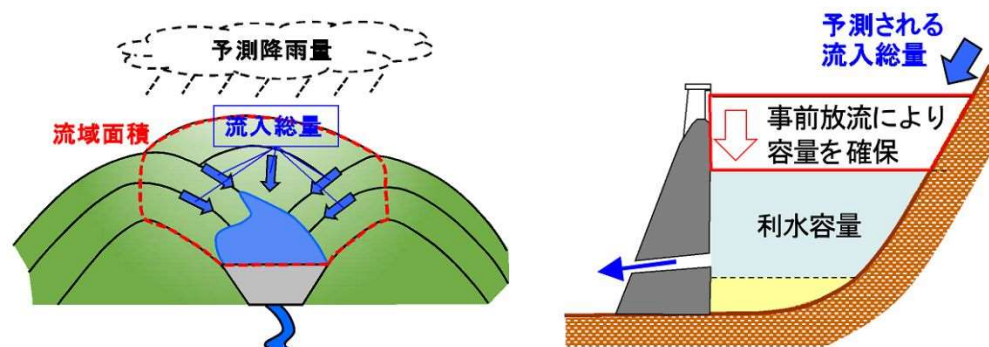
桑院ため池



恒常的な水不足を解消するために、県営事業により築造され、昭和29年に完成しました。
その後、五位ダムからの補給水も貯水し、約1,500haの農地にかんがいている氷見市最大のため池です。

- ・高さ: 23.03m
- ・長さ: 85.55m
- ・総貯水量: 79万m³
- ・池の面積: 17.5ha

洪水が予想される場合、既存ダムの利水容量の一部を洪水調節に活用し、下流側への影響を軽減する

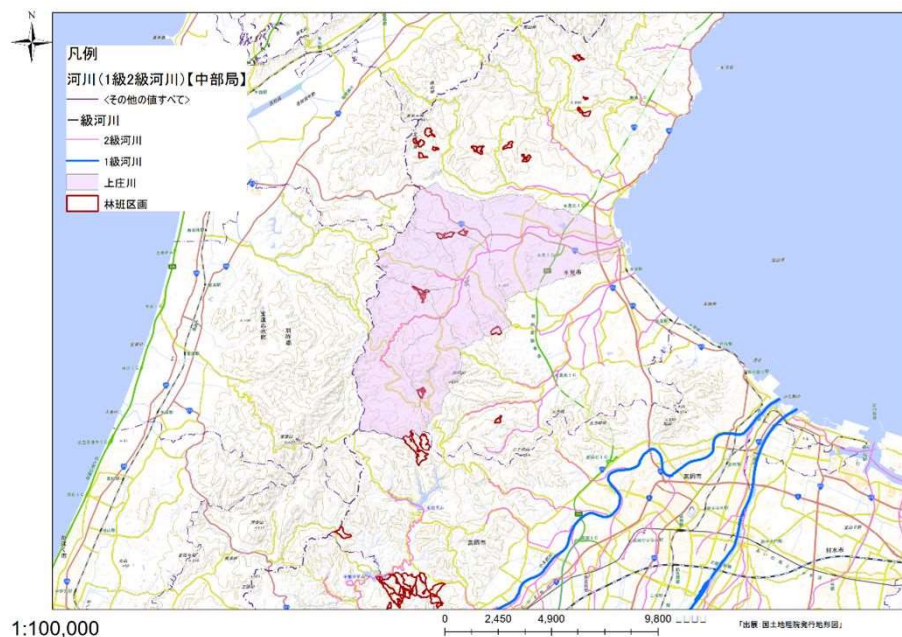


(様式:取組事例)

区 分	氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	実施機関	富山水源林整備事務所
メニュー名	森林整備		
事業・施策の名称	森林整備(除間伐等)民有林保安林内		
実施場所	上庄川(下記位置図)		

【対策概要】

- ・ 除間伐等の森林整備を実施することで、樹木の成長や下層植生の繁茂を促し、森林土壌等の保水力の強化や土砂流出量の抑制を図り、流域治水を強化促進します。
- ・ 水源林造成事業地は、上庄川流域に5箇所（森林面積 約30ha）があり、流域治水に資する除間伐等の森林整備を計画的に実施します。



水源林の整備



針広混交林



育成複層林

森林整備実施イメージ



間伐実施前



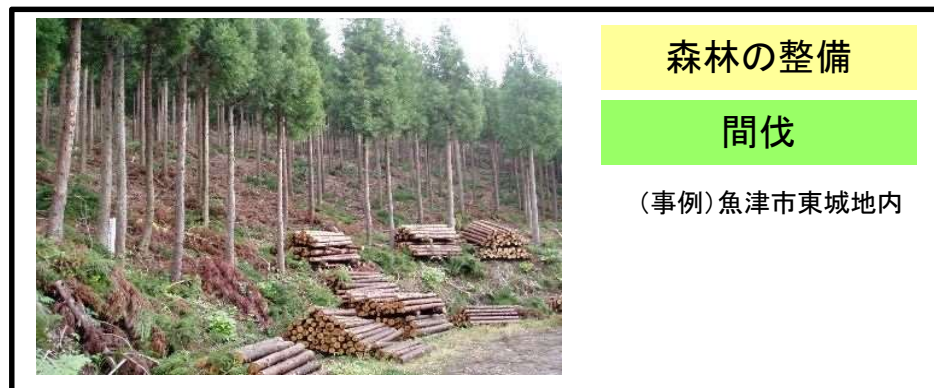
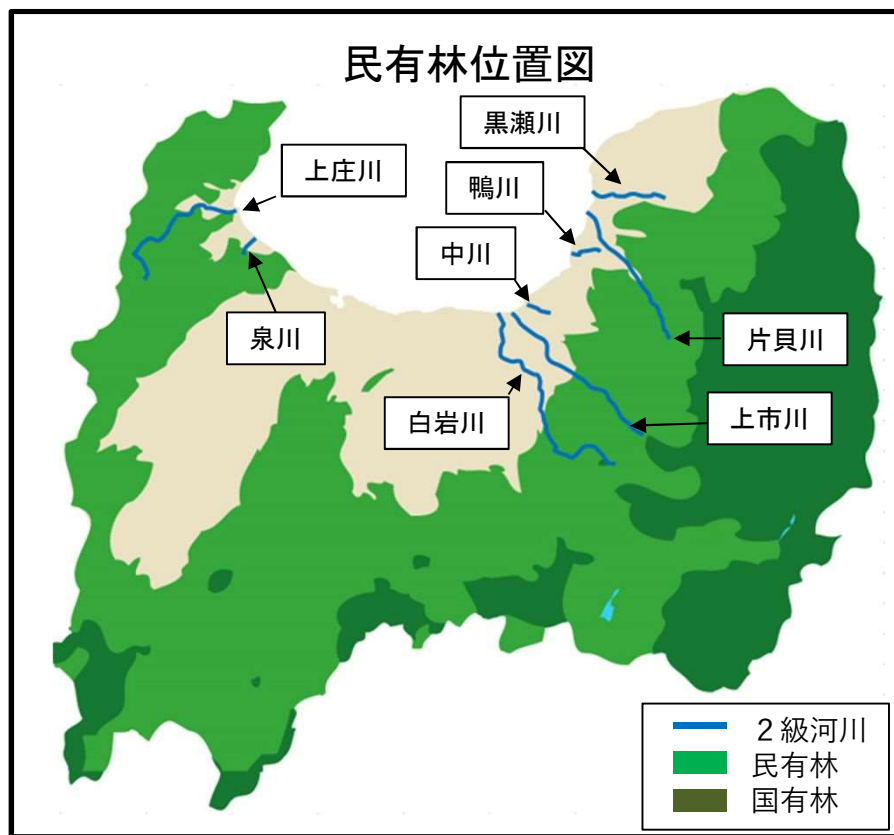
間伐実施後

(様式: 取組事例)

区分	氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	実施機関	富山県
メニュー名	森林整備・治山対策		
事業・施策の名称	森林整備・治山対策(間伐 治山工) 民有林内		
実施場所	上庄川流域		

【対策概要】

山地災害から住民の生命や財産を守るため、気象等が起因の山地災害により機能が低下した森林や溪流を対象に森林整備(間伐等)や治山施設の設置を併せて実施することにより、森林等の機能回復を図る。

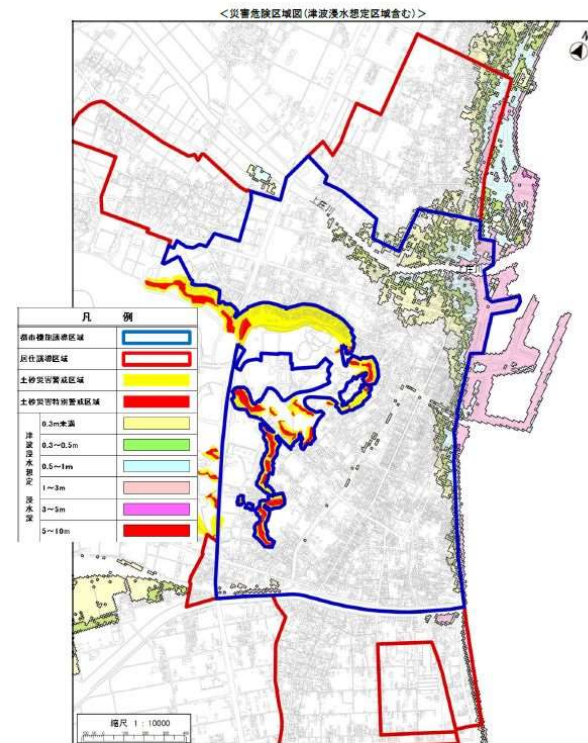
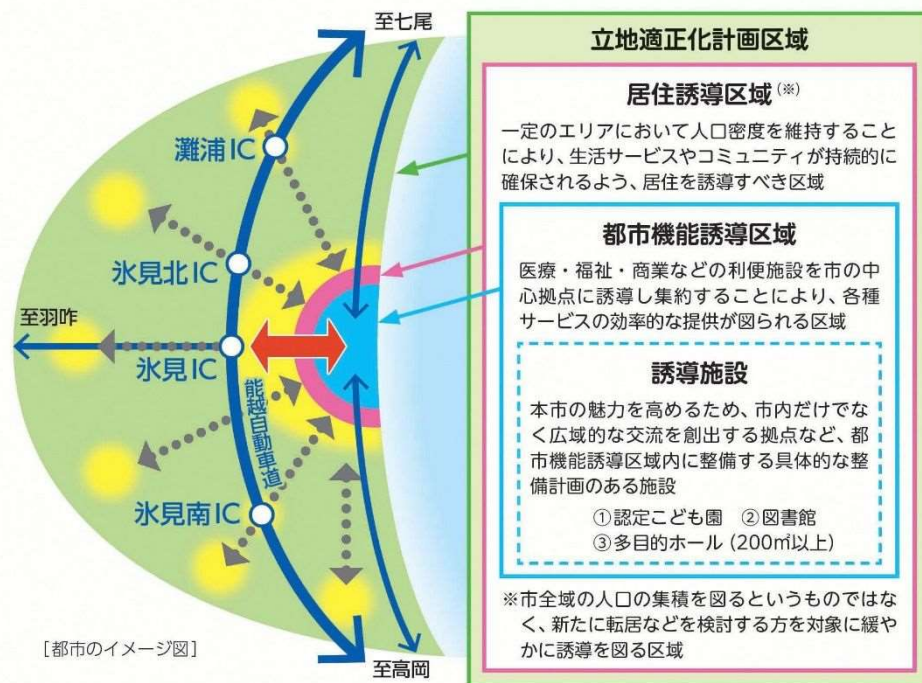


(様式: 取組事例)

区 分	被害対象を減少させるための対策	実施機関	氷見市
メニュー名	立地適正化計画に基づく「安全なまちづくり」に向けた取組(防災指針策定など)		
事業・施策の名称	立地適正化計画に基づく「安全なまちづくり」に向けた取組(防災指針策定など)		
実施場所	上庄川流域		

【対策概要】

「安全なまちづくり」に向け、立地適正化計画への防災指針の記載と取組みなどを行う

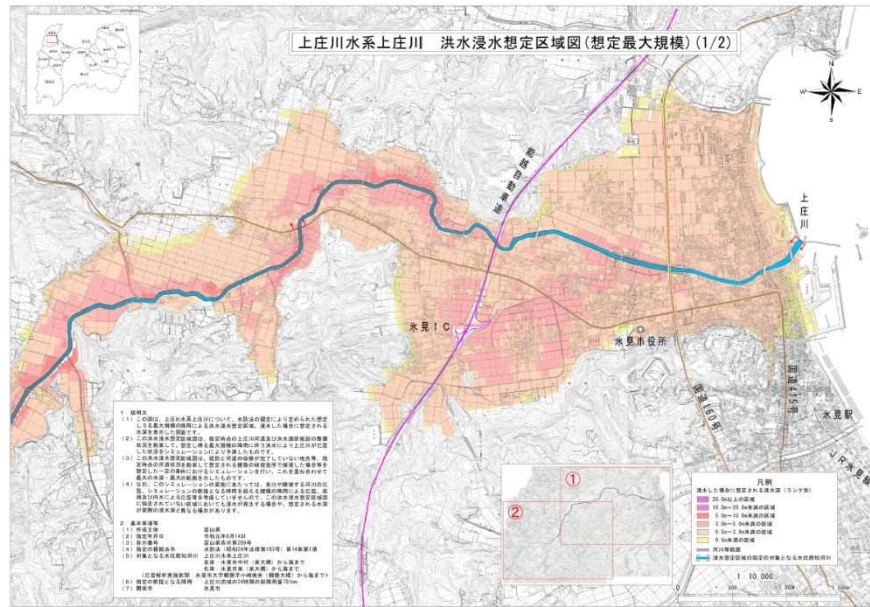


※津波浸水想定区域については、ハザードマップを作成・周知を行うとともに、氷見市津波避難計画において指定緊急避難場所や津波避難ビルを指定し、避難体制の整備を推進していること、また、沿岸部においては、主として津波を想定した避難訓練を地区の防災訓練で実施していることから、居住誘導区域の設定の対象とします。

(様式: 取組事例)

区分	被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	実施機関	富山県、氷見市
メニュー名	災害リスクの現地表示、洪水ハザードマップの周知、浸水実績の周知		
事業・施策の名称	災害リスクの現地表示、洪水ハザードマップの周知、浸水実績の周知		
実施場所	上庄川流域		

令和元年6月14日に、県内全ての水位周知河川(41河川)について、想定しうる最大規模の降雨を対象とした洪水浸水想定区域図の公表が完了しました。
 それに基づき、増水し、堤防からあふれたり、堤防が壊れたりした場合の浸水情報や、避難に関する情報をわかりやすく提供するために、「洪水ハザードマップ」を作成しています。



上庄川浸水想定図(想定最大規模)

はじめに

この災害ハザードマップは、大雨により市内を流れる河川がはん濫した場合や、山沿いでだけ崩れなどの土砂災害が発生した場合に、みなさんの「安全確保のための避難」や「危険回避」など自主的な行動を支援することを目的に作成されたものです。
 ます、みなさんの地域の「危険度」を認識し、災害発生時には迅速な避難行動や災害応急対応を行えるよう、日ごろから備えましょう。

洪水浸水想定区域

- 平成27年5月水防法の改正に伴い、対象となる河川(朝日川、仏生寺川等)の最大規模の降雨(1,000年に一度程度の降雨)を想定した新たな洪水浸水想定区域を示しています。
- 以前にみなさんご覧になった「氷見市洪水浸水想定区域図(平成19年版作成)」に比べて、浸水範囲が広く浸水深が深くなっている箇所が多いため、再度確認してください。
- その他の小川や水路などがある内水はん濫などは考慮されていませんので、想定と異なる浸水深となる場合や、想定が示されていない区域においても浸水する場合があります。

河川名	想定雨量	河川名	想定雨量
宇波川	24時間 81.3mm	上庄川	24時間 78.1mm
阿尾川	24時間 81.3mm	仏生寺川	6時間 35.1mm
赤川	24時間 81.3mm	泉川	24時間 81.3mm

土砂災害警戒区域

- 土砂災害警戒区域は、平成13年4月に制定された「土砂災害防止法」に基づき、土砂災害の危険性のある区域について県が指定するもので、土砂災害から国民の生命を守るため、土砂災害の恐れのある区域についての危険の通知、警戒避難体制の整備、警戒物資自立の抑制など、ソフト面での対策を推進しようとするものです。
- 人に影響を及ぼす区域を対象としており、指定されていない区域でも土砂災害が発生する可能性があります。

※浸水及び地盤の状況については、同じ市が発行している「洪水ハザードマップ」及び「おたけハザードマップ」をご覧ください。

目次

表紙	はじめに	地図	洪水・土砂災害ハザードマップ
避難の心構え	マップ内の目的/目次	P1	P2
災害学習・避難活用情報1	災害学習・避難活用情報2	P3	P4
災害学習・避難活用情報1	災害学習・避難活用情報2	P5	P6

この冊子の制作に活用している地図情報は、氷見市発行約5千分の「地勢図(尺1:2.5万)」を基に制作したものです。

氷見市洪水ハザードマップ(想定最大規模)

家族で話し合っておく

洪水・土砂災害発生時にどこに避難し、どのように避難を取り合うかな、家族で事前に話し合ってみよう。

防災訓練に参加しよう

氷見市や地域が行う防災訓練に積極的に参加し、ハザードマップを活用して避難経路などの危険箇所や迂回路を確認しておきましょう。

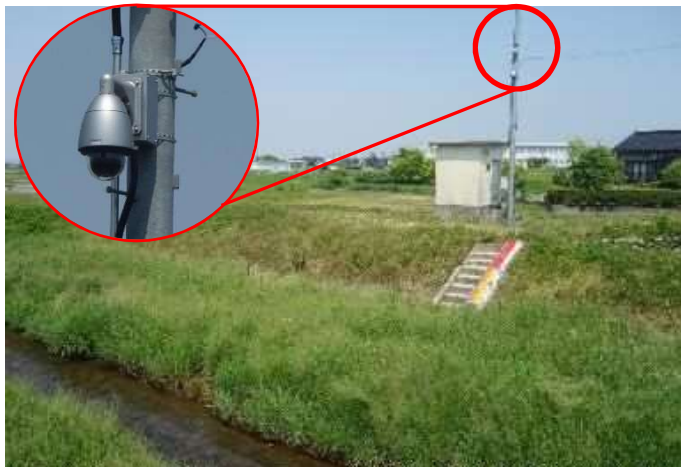
(様式: 取組事例)

区 分	被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	実施機関	富山県
メニュー名	水位計・監視カメラの活用		
事業・施策の名称	河川状況等ライブカメラ情報		
実施場所	県管理の水位周知河川の水位観測所等		

洪水時における住民の自主避難や市町村長の避難指示等の判断を支援するため、県管理の水位周知河川の水位観測所等71箇所(R2.10月末時点)において、河川監視カメラを設置し、カメラ画像をインターネットを通じて一般公開するもの。

【実施概要】

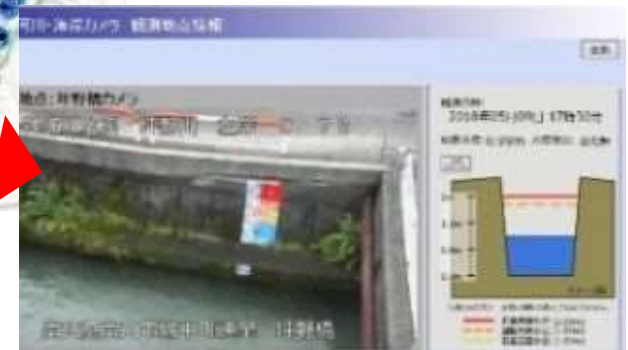
- ・ 公開開始日：平成30年6月～
- ・ 公開の方法：画像情報（静止画：5分更新）と水位情報をホームページで提供
- ・ 公開HP：「富山県河川・海岸カメラ」(<http://kawa.pref.toyama.jp/camera>) 等



河川監視カメラ設置状況



外部公開サイト(富山県河川・海岸カメラ)



河川監視カメラ画像

(様式: 取組事例)

区分	被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	実施機関	富山県、氷見市
メニュー名	要配慮者利用施設避難確保計画の作成及び支援		
事業・施策の名称	要配慮者利用施設の避難計画の作成及び訓練の促進		
実施場所	(対象: 市町村地域防災計画で指定された要配慮者利用施設)		

高齢者福祉施設等の要配慮者利用施設における水害時の円滑かつ迅速な避難の確保を図るため、市町村が開催する施設管理者向け講習会への講師派遣等により、避難確保計画の作成や避難訓練の実施を支援するもの。

【取組実績】

- ・ 令和元年度：南砺市、入善町、黒部市にて講習会
- ・ 令和2年度：魚津市にて講習会
- ・ 令和3年度：富山市にて講習会
- ・ 県内の要配慮者利用施設1553施設中875施設（56.3%）で計画を作成済み（R3.09.30時点）



講習会の様子 R3 富山市

様式 2

4 防災体制

【防災体制確保の取組状況】

施設種別(避難施設)	種別	避難計画	訓練(年)
1) 高齢者福祉施設(本庁管内) 15件	定置式避難口		
	避難経路の確保		
	避難誘導の確保		
2) 要配慮者施設(本庁管内) 15件	定置式避難口		
	避難経路の確保		
	避難誘導の確保		
3) 高齢者福祉施設(他管内) 15件	定置式避難口		
	避難経路の確保		
	避難誘導の確保		

5 避難訓練

(1) 避難訓練の実施状況

施設種別(避難施設)	実施回数	実施時期
1) 高齢者福祉施設(本庁管内) 15件		
2) 要配慮者施設(本庁管内) 15件		
3) 高齢者福祉施設(他管内) 15件		

(2) 要配慮者施設(本庁管内) 15件

施設種別	避難計画	訓練時期
1) 高齢者福祉施設(本庁管内)	済	
2) 要配慮者施設(本庁管内)	済	
3) 高齢者福祉施設(他管内)	済	

記載例

4 防災体制

【防災体制確保の取組状況】

施設種別(避難施設)	種別	避難計画	訓練(年)
1) 高齢者福祉施設(本庁管内) 15件	定置式避難口		
	避難経路の確保		
	避難誘導の確保		
2) 要配慮者施設(本庁管内) 15件	定置式避難口		
	避難経路の確保		
	避難誘導の確保		
3) 高齢者福祉施設(他管内) 15件	定置式避難口		
	避難経路の確保		
	避難誘導の確保		

5 避難訓練

(1) 避難訓練の実施状況

施設種別(避難施設)	実施回数	実施時期
1) 高齢者福祉施設(本庁管内) 15件		
2) 要配慮者施設(本庁管内) 15件		
3) 高齢者福祉施設(他管内) 15件		

(2) 要配慮者施設(本庁管内) 15件

施設種別	避難計画	訓練時期
1) 高齢者福祉施設(本庁管内)	済	
2) 要配慮者施設(本庁管内)	済	
3) 高齢者福祉施設(他管内)	済	

簡易な計画ひな型 (国交省)